

6. 地域医療分野

6-1. 地域医療プログラム

GIO

地域医療、地域保健を必要とする住人から求められる対応ができる

SBOs

1. 住人の日常生活や居住する地域の特性に即した医療（在宅医療を含む）を行う。
2. 診療所および病院、老健施設、在宅医療の役割について説明できる。
3. 病診連携、病病連携を理解し、自ら対応する患者に連携制度を適応する。
4. 医療過疎地での医療を経験する。

方略

連携相談室勤務の時間を持つ、連携相談室で講義を受ける、電話を取りづく
地域医療での研修先で与えられた仕事を行う
往診および無床診療所での診察を経験する
老健施設回診当番を設定する、回診を行う
科別ローテート時、担当患者を病診連携システムを用いて他院へ紹介する
地域医療ローテート時期は、1年次後半以降、少なくとも4週間

評価

地域医療指導者の観察記録および研修医自身の実施記録
連携相談室指導者の観察記録および研修医自身の実施記録
老健施設の診療録記載
患者紹介についての経過レポート

在宅医療研修短期プログラム

目 標

在宅療養に代表される社会のニーズに応えることができる医療者となるために、病診連携に則った総合的な在宅医療を経験し、その経験を当院での実臨床に資する。

対 象 者 二年次初期研修医

期 間 原則として2週間

行動目標

1. 派遣先施設の指導の下、在宅医療を経験する。
2. 在宅における医療事情を患者の担当医となることを通して理解する。
3. 中京病院と、派遣先施設および在宅療養担当者とのかかわりを述べる。
4. 自分自身の中長期的目標においての、この研修の意義を述べる。

方 略

1. 派遣先施設において実務を行う。実務とは在宅支援カンファレンスへの出席、計画的な在宅医療の経験、在宅での終末期ケアの実施。
2. 派遣先施設に下級医や学生が在籍している場合には、その教育にかかわる。
3. 時間外、休日業務については派遣先施設に従う。
4. 派遣費用及び給与は中京病院が負担する。
5. 指導責任者は、派遣先部署診療責任者とする。
6. 時期は臨床研修センターが調整する。

評 価 出勤簿、研修レポート

研修施設 医療法人笠寺病院
名古屋市南区松池町 3-19
TEL052-811-1151(代表)

6-2. 予防医療プログラム

GIO

予防医療を理解し、地域や臨床の場で病態予防を実践する

SBOs

1. 自ら対応する患者に食事・運動・休養・飲酒・禁煙指導などの生活指導をする。
2. 予防接種を実施できる。
3. 性感染症予防、家族計画を指導する。
4. 地域・産業・学校保健事業に参画する。

方略

地域医療分野（予防医療）研修は、内科分野ローテート中に行う
健診センター（あいち健康プラザ）での保健指導を行う
科別ローテート中の担当患者に生活指導（食事、運動など）を行う
学校検診または職場検診を行い、結果説明と生活指導を行う
保健所研修を行い、性感染症予防、家族計画を指導の実際を経験する

評価

指導者の観察記録

担当患者に対しての生活指導記録（診療録に記載）

学校、職場担当者の観察記録および自身での実施記録

保健所担当者の観察記録および自身の実施記録

7. 必修選択分野

(外科分野(一般外科、麻酔科)・小児科(小児循環器科)・産婦人科・精神科心療科)

7-1-A. 一般外科プログラム

GIO

臨床医としての基礎を築くために外科学医療の基本的な考え方と基本的手技を習得し、あわせて医療従事者との協調性や患者とのコミュニケーションのとり方を学ぶ。

SBOs

1. 望ましい態度と系統的問診により、正確で十分な病歴聴取ができる。
2. 系統的診察により正確な理学的所見がとれる。
3. カルテに記載されている基本的検査の結果が解釈できる。
4. 疾患ごとの手術適応が理解できる。
5. 清潔、不潔の概念が理解でき、手術に参加できる。
6. 解剖が理解できる。
7. 術後管理の基本を習得し、周術期の全身状態を把握できる。
8. 患者との良好な人間関係を築き、昼夜を分かたず術後管理ができる。

方略

1. 受け持ち患者(手術症例)を2~3名担当する。
2. 病棟研修：
 - ・受け持ち患者の毎日の経過を観察し、病態を把握してカルテに記載する。
 - ・必要に応じて、指導医とともにベッドサイドでの処置、治療に参加する。
 - ・時間に余裕のあるときは、回診に随行して広く術後管理について学ぶ。
3. 手術室研修
 - ・受け持ち患者の手術に参加する(第二助手)。
 - ・その他各種疾患の手術に参加して、基本的手術手技と解剖を学ぶ。
 - ・麻酔覚醒から病棟搬送の間、片時も離れることなく常に患者の状態を観察する。
 - ・摘出標本の整理を通じて、病変の広がりや形態の把握をする。
4. 入院患者カンファレンスへの参加：
 - ・各種の画像診断について学ぶ。
 - ・受け持ち患者の病態をサマライズしてカンファレンスで発表する。

評価

1. 経験目標に定められたレポートを提出する。
2. EPOC
3. ローテート科評価表、手技実地記録、経験症例一覧を用いる。